



自由民主党

いとう たつや

伊藤達也

元金融担当大臣／衆議院議員／松下政経塾出身

VOICENETmini
2008年9月号

発行所
フォーラムフロンティア
(伊藤達也連合後援会)
〒182-0024
調布市布田1-3-1
ダイヤビル2F
TEL 042-499-0501
FAX 042-481-5992

改革続行でこの国を建て直す

麻生新総裁が選出されました。責任ある政党としての再出発です。国民のために身命を賭して汗をかき、政治の信頼を取り戻す。そして、正直に頑張るひとが報われる「活力と誇りある社会」を築くとの決意を新たにしました。新総裁のもとで自らの改革の思いを重ね合わせ、この国を建て直すための処方箋を示してまいりたいと思います。改革は決して後退させません。

行政を叩きなおす

税金の無駄遣いや不祥事がとまらないずさんな行政。統治機構を抜本的に変えなければ行政の信頼を取り戻すことはできません。そのためにも官邸機能を強化して総理のリーダーシップを高めます。同時に、地方分権の視点から中央省庁の再々編に踏み込み、21世紀型の行政システムを確立してまいります。

景気を建て直し、経済を活性化する

米国発の金融不安が世界に広がる中で、日本の景気も大きく後退するのではないかと懸念されています。緊急経済対策を実施するとともに、日本の一人当たりGDPを1.5倍に拡大していく中長期ビジョンを示します。日本の底力を生かす経済構造改革を加速し、成長力を強化します。



安心して暮らせる社会を築く

2025年に140兆円を超える社会保障の費用をどう負担をしていくのか。そのためには成長と福祉を両立させ、さらに地域や現場の創意工夫を生かした効率的、効果的な社会保障制度を確立していかなければなりません。積み重ねてきた社会保障国民会議の議論を踏まえ、制度改革を断行してまいります。

私がこれまで取り組んできた金融再生や経済財政一体改革(日本版上げ潮政策)、また社会保障担当の総理補佐官としての経験を生かして、国民の方々が感じている不安や疑問と正面から向き合い日本を再生するために全力を尽くしてまいります。

衆議院議員 伊藤達也

伊藤達也のこれまでの歩み

生い立ちから政治を志すまで

昭和36年7月6日(47歳)かに座 O型

調布第一小学校、調布中学校を経て、慶大法学部卒業

早朝から野川の河原でボールを追いかける野球少年。中学受験するも、すべて失敗。挫折を癒してくれたのはやはり野球だった。

高校では甲子園を夢見て野球部に入部するも、直後に母親が病に倒れる。看病のために退部。多くの人に支えられたが、3年後に母を失う。

松下政経塾へ

母親の闘病生活の中で、医療や福祉の世界の矛盾と向き合う。その矛盾を変えられないか、一人でも多くの人を救えないか、と考えて松下政経塾の門を叩く(5期生)。

政治への志を固める5年間となった。

夫婦で宅配ピザ店をはじめ。「政治家を志すにあたり、自分と家族の生活費くらいは自分で賄えないといけない」という師・松下幸之助の教えに従った。

政治家として

1993年 衆議院議員総選挙で初当選(以来、連続5回当選)

2000年 通商産業政務次官、党経済産業部会長、衆議院環境委員会筆頭理事

攻めと守りの構造改革を訴える。IT・中小企業政策、環境問題などに取り組む。

2002年 内閣府副大臣(金融担当)、(金融・経済財政政策担当)

2004年 金融担当大臣

金融危機の真っ只中、竹中大臣と金融庁へ乗り込む。主要行頭取が一堂に会し金融再生プログラムに反対するも、ひるまず、不良債権問題を終結させた。

2006年 政調会長補佐として、上げ潮政策を起案

その他、党総務、幹事長補佐、対外経済協力特別委員長

u-Japan特命委員会幹事長、地域再生調査会長、衆議院決算行政監視委員会筆頭理事、財務金融委員長、予算委員会理事など

2007年 松下政経塾で「現代政治講座」を受け持ち、後進の指導にあたる

2008年 内閣総理大臣補佐官として、社会保障を含む経済社会構造 改革を担当

家族 : 妻と一男一女の四大家族

趣味 : 野球・映画鑑賞

座右の銘:「成功の要諦は成功するまで続けることにある」

政策提言する「達也の直球勝負」

ほとんど毎日更新中「伊藤達也ブログ」など内容充実!

伊藤達也

検索

<http://www.tatsuyaito.com>

伊藤達也事務所: 〒182-0024 調布市布田1-3-1 ダイヤビル2F TEL 042-499-0501 FAX 042-481-5992